

使徒言行録4章14節～22節。しかし、足をいやしていただいた人がそばに立っているのを見ては、ひと言も言い返せなかった。そこで、二人に議場を去るように命じてから、相談して、言った。「あの者たちをどうしたらよいだろう。彼らが行った目覚ましいしるしは、エルサレムに住むすべての人に知れ渡っており、それを否定することはできない。しかし、このことがこれ以上民衆の間に広まらないように、今後あの名によってだれにも話すなと脅しておこう。」そして、二人を呼び戻し、決してイエスの名によって話したり、教えたりしないようにと命令した。しかし、ペトロとヨハネは答えた。「神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてください。わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです。」議員や他の者たちは、二人を更に脅してから釈放した。皆の者がこの出来事について神を賛美していたので、民衆を恐れて、どう処罰してよいか分からなかったからである。このしるしによっていやしていただいた人は、四十歳を過ぎていた。

ペトロとヨハネは最高法院で、何の権威、誰の名によって、生まれながら足の不自由な男を癒したのかと尋問を受けた。ペトロは「あなたがたが十字架につけて殺し、神が死人の中から復活させられたあのナザレの人、イエス・キリストの名によるものです」と答えた。そして、救いは「天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです」と語った。最高法院の議員たちは、二人が無学な普通の人であるのに、何ものも恐れず、大胆で力強い証言をするのを聞いて驚き、圧倒された。

ペトロの証言通り、癒された男が目の前にいるので、議員たちは言い返すことができなかった。慌てふためき、二人を法廷の外に出るように命じ、相談した。「あの者たちをどうしたらよいだろう。彼らが行った目覚ましいしるしは、エルサレムに住むすべての人に知れ渡っており、それを否定することはできない。しかし、このことがこれ以上民衆の間に広まらないように、今後あの名によってだれにも話すなと脅しておこう。」議員たちの狼狽ぶりが分かる。主イエスは死から復活し、生きておられるという信仰に基づく証言が最高法院の権威を打ち砕いたのである。彼らは二人を呼び戻し、決してイエスの名によって話したり、教えたりしないようにと脅し、命令した。ところが、ペトロとヨハネは「神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてください。わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです」と反論した。主イエスを復活させた神に従わず、人間であるあなた方に従うことなどできません。私たちは主イエスの復活を見た。目撃した復活の事実、その喜ばしい出来事を語らないではいられない。二人の証言は最高法院を圧倒し、議員たちは反論する言葉を失った。彼らは、失墜した権威を取り戻そうと、二人を更に脅してから、仕方なく釈放した。民衆はペトロとヨハネが足の不自由な男を癒し、立ち上がらせたしるしを見て、神を賛美した。民衆の二人に対する尊敬と賛意に押され、最高法院は処罰を下すことができなかった。

神を信じることは権威や権力に屈することなく、癒された男のように自分の足で立ち、またペトロのように臆することなく自分の言葉を持つことである。私たちはこの世の力や慣わしに縛られ、自分であることを奪われている。死から生へと起こされる神を信じる時、自分自身を回復する。復活の主イエスはこの回復を私たちに約束してくださっている。